

愛知ネット防災プログラム一覧（2019年現在）

No.	講座名	ページ	概要	対象者						人数(名)				所要時間	屋内外	備考
				幼児	小学生	中学生	高校生	企業	自治会	～10	～20	～30	～50			
1	HUG(避難所運営ゲーム)		災害時の避難所運営を疑似体験するカードゲーム。参加者は避難所の運営スタッフになり、次々と避難所を訪れる避難者(カード)の事情に配慮しつつ、どのように配置するか考える。			○	○	○	○	○	○	○	○	1.5～2時間	屋内	・1グループ5人～ ・所要時間は配布するカードの枚数により異なる。
2	DIG(災害図上訓練)		地域の白地図を用いる参加型のワークショップ。災害時、地域で発生しうる様相を地図上へ書き込む。地域の強みや弱みを確認し、地域として今後の対策を考える。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1.5～2時間	屋内	・1グループ4～6人
3	シナリオワークショップ		避難所の様々な課題に対して、自分達のできる「理想」的な対応と「現実」的な対応の2つに分けて考え、模造紙に記入していく。また、日頃から出来ること(備え)を、自分・地域・行政に置き換え、役割を考える。				○	○	○	○	○	○	○	2～3時間	屋内	所要時間は取り上げるテーマの数で変動
4	ぼうさいダック		安全・安心のための「最初の第一歩(ファースト・ムーヴ)」を、子どもたちが、実際に身体を動かし、声を出して遊びながら学ぶ防災ゲーム。	○	○									0.5～1時間	屋内外	・小学校低学年まで
5	なまずの学校		地震などの災害で発生する様々なトラブルを紙芝居形式で出題し、トラブルを解決するのもっともふさわしいと思うカードを出して得点を競う防災ゲーム。		○									1時間	屋内	1グループ4～6人
6	ロープワーク		災害時や緊急時に役立つロープの結び方を学ぶ。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	0.5時間	屋内	
7	新聞クラフト		新聞紙を使い、スリッパや座布団を作成する。身近なもので防災グッズを作ることを通じて、子供たちの防災意識の啓発を行う。	○	○									0.5～1時間	屋内	幼児は保護者同伴
8	防災笛作り		牛乳パックを使い、災害時の建物が倒壊した際などに役立つ防災笛作りを行う。防災笛作りを通して、子供たちの防災意識の向上にもつなげる。	○	○									0.5時間	屋内	幼児は保護者同伴
9	簡易タンカ		竹2本と毛布を使い、簡易タンカを作成し、実際に人を運ぶ。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	0.5時間	屋内	
10	ストローハウス		ストローをテープ等を使って組み立てて家の骨組みを作る。それを通じてどのように枠組みを作れば、地震の揺れに対して強くなるのか学ぶ。		○	○	○							0.5時間	屋内	
11	防災クイズ		紙芝居形式の簡単な防災クイズを行い、楽しみながら防災への知識を学ぶ。	○	○									0.5時間	屋内	
12	防災マップ作り		災害時、地域の危険な場所や安全な場所はどこにあるのか？実際にまち歩きをして地図上に書き込み、防災科学技術研究所のEコママップ(インターネット)を用いて、まち歩きした内容を反映させます。地域だけのオリジナル防災マップを作成します。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	まち歩き(4時間)	屋内外	Eコママップへの入力には事前登録が必要
13	熊本地震の話		熊本地震で実際に見聞きしたこと、写真を見ながら解説。熊本地震での活動を通じて学んだ事、必要な備えを一緒に考える。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	0.5時間～		
14	東日本大震災の話		東日本大震災で実際に見聞きしたこと、写真を見ながら解説。東日本大震災での活動を通じて学んだ事、必要な備えを一緒に考える。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	0.5時間～		
15	非常持ち出し品袋		とっさに起きる災害。そんな時何を持って逃げればいいのか？自分に合った非常持ち出し品を考える。また、選んだ持ち出し品は適正な重量なのか？砂袋入りリュック(数種類の重さ)を実際に背負い、自分に合った重さを考える。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	0.5時間	屋内	
16	日頃からの備えチェック		日頃の備えとして、自分がどれくらい備蓄(何を、量)が必要かを計算し、考えます。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1時間	屋内	
17	一日の行動とそなえ		非常持ち出し袋や備蓄品として備えるモノ。実は一人ひとり違うのです。一日の行動を書き出し、一緒に考えていきます。		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1時間	屋内	